

49 「家庭的保育」という選択

子どもができてもしっかり働けるためには、自宅の近くで安心して預けられる場所があることが重要だ。

家庭的保育とは

問題は、大都市を中心に保育所が足りないこと。政府は「待機児童」を減らそうと躍起だが、そう簡単にいかない。そこで注目されるのが自治体が独自に設けた「家庭的保育」（「保育ママ」など）制度。保育者が自宅で子どもを預かるしくみだ。

家庭的保育は保育所と比べ小規模なため、子どもの状態に合わせた個別・柔軟な対応ができる。また、違う年齢の子どもと一緒に生活は、一人っ子には貴重な経験。親にとつて

も保育者は気軽な相談相手だ。

制度の内容は、地域によってさまざま。保育者の条件に保育士の資格を求めるところもあれば、資格・経験不問のところもある。料金のしくみも、認可保育所に準じる場合と、保育責任者が決める場合がある。

認可保育所並みの公的補助を

家庭的保育の存在は、一般にあまり知られない。情報も少なく、加えて無認可のため、問題が起きたときの対処を心配し、預ける側に躊躇^{ちゅうちよ}がある。保育支援センターやオンラインネットワークで、保育所か家庭的保育かを問わず、相談や交流が図れる場をつくって、しくみをよく理

解してもらおうべきだ。

また、保育所とは異なる保育技術や運営のノウハウなども必要。保育者の研修・育成プログラムをしつかり決め、サービスの質を保ちたい。

保育者は収入・運営が不安定な場合が多い。制度として確立し、安定的にサービスが提供されるためには、認定制度を作つて保育者の職業的地位を評価した上で、認可保育所と同様の公的補助が求められる。

多様化するニーズに即し、かつ「保育」という現場における自己の経験や能力を生かせる家庭的保育を、保育所の不足を補う観点ではなく、利用者の選択肢の一つとして位置づけることが望まれる。

④関西ビジネスインフォメーション「女性」
性が互いに支えあう地域社会」

